

藤枝市史だより

第 3 号

平成 12 年 8 月 10 日発行

編集・発行

藤枝市郷土博物館

管理課市史編さん係

〒426-0014

藤枝市若王子500 (運華寺池公園内)

TEL 054 (645) 11000

E-mail

fujieda-muse
@ny.tokai.or.jp

郷土の植物景觀

さだか
桿高より高い樹木を残して尾根までモウソウチク林で覆われた里山



現在、藤枝に見られる里山はほぼ全域が杉檜植林、みかん畑、茶畑として利用され尽くしており、その植生は極めて単純なものとなっています。特に戦後の経済・産業構造の変化が里山利用を一変させました。

この地にある里山の歴史をたどれば、もともと先史時代はシイやカシやクスなどに代表される照葉樹が一面に繁っていたのです。大規模な山火事が発生した跡は十分に光が差し込むため、そこだけはコナラ、クヌギ、シデなどの雑木やアカマツの林になっていました。

ところが時代が下って集落ができ、水田や常畑が造成されるようになると、この雑木林やアカマツ林は物資やエネルギーの供給の場としての価値が高まり、里山はこれらの二次林に変えられていきました。そこは薪炭材や刈藪・堆肥の採集、用材や材木の取得、牛馬の飼料採草や茅場など集落住民の生活を支える場となったのです。その後、里山は自然と人間生活のバランスを保ちながら、長い間大切に維持管理されて日本の原風景とも言えるべき独自の農村風景をつくり出していました。

しかし、戦後の人口動態や経済性重視の時勢のなかで、雑木林やアカマツ林の価値が低下するとそこは放置され、次第にその姿を消すに至りました。雑木林やアカマツ林が消えた今、里山はもともとの植生であるシイやカシなどの照葉樹林に遷移しています。この地では自然の理として、手を入れなくなった二次林は照葉樹林に回歸していくのです。一方で造林拡大が進められ、里山から奥山へ続く峡谷を彩った紅葉の風景もまた多くが消えていきました。

かくして我が藤枝の里山からは、日本の情緒象徴たる景觀が消滅していったのですが、思えばかつての里山の雑木林は、人と自然の共生をめぐりに実践していた場であり、皮肉にも現代社会が抱えるむづかしい課題を解決するためのモデルとして考えられているのです。景觀上の美しさも明治期の自然主義文学者によって紹介された通りです。松もまた数ある樹木の中で最も日本人の生活に溶け込み、さまざまな形で文化・経済の発展に寄与してきました。

それらを思うと、里山の雑木林とアカマツ林が戦後の短期間に消滅してしまった事実には、我が国のひとつの文化の終焉を思わざるを得ません。

栄えていたものが衰退する一方で、自然景觀上新たな現象も生じています。藤枝の植物景觀で最近、誰もが気になっていること、それは竹林の拡大です。里山では今、竹林が拡大を重ねて猛威を振るっています。

かつての農家の屋敷や裏山にマダケの竹林が必ずありました。マダケは竹材として箆や籠などの竹製品にしたり、剥がれ落ちた皮は食品の包装材料に使ったりしていました。しかしマダケの筍は苦みがあるために戦後、モウソウチクに転換されたのです。モウソウチク林は需要の伸びで拡大が図られてきましたが、近年になって安価な外国産筍や竹製品の輸入の増大、後継者不足、猪の筍食害による生産意欲の減退などで竹林を放棄してしまった所が多いのです。

管理から解放されたモウソウチク林はその繁殖力の強さ故に暴走はじめ、今や桿高より高い樹木を残して頂上まで竹藪に覆われている里山も多く、杉檜の人工林、みかん畑、茶畑も侵食されて、防止に向けた新たな取り組みが急がれています。

里山の衰退とともに、各地で桜を中心とした公園化が進んだこともあって、私たちの身近な風景は楓と松に替わって、桜と竹が目立つようになりました。その時代に住む人間の思想が自然をどのようにも変えてしまうのです。

江戸時代のツアーコンダクター

近世担当

市史編さん調査委員
静岡県立相良高校 教諭

「旅に出よう」と思い立ったとき、旅行業者は便利な存在です。見どころの紹介から宿や乗り物の手配、現地での案内に至るまでさまざまなサービスを提供してくれます。では、こうした旅行業者はいつ頃から現れたのでしょうか。ここでは、旧長楽寺町碓井家の古文書をもとに江戸時代の旅行業者の活躍について紹介します。

つかもと
裕己

「旅に出よう」と思い立ったとき、旅行業者は便利な存在です。見どころの紹介から宿や乗り物の手配、現地での案内に至るまでさまざまなサービスを提供してくれます。では、こうした旅行業者はいつ頃から現れたのでしょうか。ここでは、旧長楽寺町碓井家の古文書をもとに江戸時代の旅行業者の活躍について紹介します。

天保十一年（一八四〇）二月一日、碓井与助さんは伊勢を目指して東海道を西に向かいました。旅の総勢は供を含めて八名です。与助さんはこの道中の様子を二種類の日記に記しています。一つは表紙に「子二月十一日吉日出立、日記」とだけ書かれたもので、もう一つは「華日記」と書かれたものです。

二つの日記は内容的にはほとんど同じものですが、「華日記」の方が記述が詳しく、整理して書かれています。おそらく、「日記」はメモ帳で、宿についてから、あるいは帰宅してからまとめたものが「華日記」だと考えられます。伊勢内宮、外宮を参詣した一行は奈良に向かい、葛屋与兵衛宅に宿を取りました。ここで、一行は奈良から大坂

までの案内人足を雇います。この時の契約書が「大和案内之事」という古文書です。契約の内容は次の通りです。

①法隆寺、多武峰、吉野山、高野山、住吉明神など、三〇の名所を案内する。
②料金は二貫文、そのうち五百文は前金として渡し、残りは道中必要となった時に支払う。
③案内人が逃げてしまった場合でも、迷惑を掛けない。」人足は鶴吉で、契約どおりに一行を案内しています。与兵衛は宿屋を営む傍ら、旅人に案内人を斡旋していたのです。ひよつとしたら、専属の案内人がいたのかもしれない。現代風にいえば、葛屋与兵衛は旅行業者で、鶴吉はツアーコンダクターといえるでしょう。

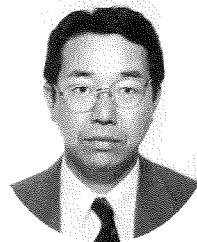
葛屋与兵衛のような旅行業者の起源と考えられるものに「御師」があります。御師は平安時代になされた祈祷師のことで、特定の寺社に所属して参詣者を案内し、祈祷や宿泊の世話をしていました。伊勢神宮では「おんし」といい、江戸時代になって庶民の間に伊勢参りが流行してくると、参詣者に宿を斡旋したり、名所案内をしたりしました。



碓井与助さんが旅に出た一九世紀前半は、旅の目的が参詣や湯治から行楽へ変わっていった時代です。各地の名所を紹介する「名所図絵」が出版され、旅の手引書もつくられました。十返舎一九の『東海道中膝栗毛』や安藤広重の『東海道五十三次』が好評を博したのもこの時期です。こうした風潮の中で、伊勢や大和といった名所旧跡の多い所には、旅行業者が数多くうまれたでしょう。

大坂を見物した一行は、船で丸亀へ渡り、讃岐の琴平、播磨の明石を巡り、京都に到着します。帰途は草津から中山道を名古屋に出て、四月六日に帰宅しています。「華日記」には、「不残拝見」、「不残参詣」という文言が随所に見られます。この言葉に、目を輝かせて旅を楽しんでいる与助さんの姿がうかがわれます。

市民に愛される市史を



藤枝市立高洲中学校 教諭
あおしまのりあき
青島徳明

新しい市史の編さんが始まって以来、「市史だより」などの広報誌の発行や学習会・講演会の開催などを通して市史編さん事業を市民の生涯学習の中に位置づけたことは編さん委員会の卓見であると心より感謝しています。

さて、社会科教員の立場から市史編さん事業に次のような要望をしたいと思います。

第一は資料編を含め、子どもたちの調べ学習に対応できるように平易な文章で記述する。

第二に各時代の郷土の発展や人々の生活の向上に寄与した特徴的な人物を取り上げ、郷土史を身近なものと感じられる市史とする。

第三に図説市史は子どもたちが読むだけで藤枝史の概略がわかるような内容とする。

第四に衣食住・年中行事・信仰を含め、各時代の生活文化がイメージできる内容とする。

第五に写真・図版を可能な限り取り入れる。

以上の点に配慮していただき、市民に愛される市史が編さんされることを期待しています。

調査協力員の紹介

計20名で構成し、市内担当地区の資料の所在調査や収集を行っています。今回は10名を紹介し、次号で他の地区担当者を紹介します。皆様のお宅に江戸時代の古文書、明治から昭和にかけての書類、日記、写真など、当時の暮らしを知るための資料が眠っていませんか。資料をお持ちの方は、お気軽に調査協力員または市史編さん係へご連絡ください。

瀬戸谷地区



あおきかつお
青木勝雄



おかむらいさむ
岡村 勇

稲葉地区



しばたしげきち
柴田繁吉



ばんばえいこ
番場英子

葉梨地区



たねいしまさお
種石昌雄

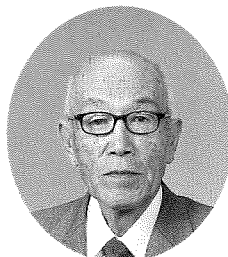


わたなべやすじ
渡辺保次

広幡地区



えんどうけいじ
遠藤銈二



まつもとちえ
松本八衛

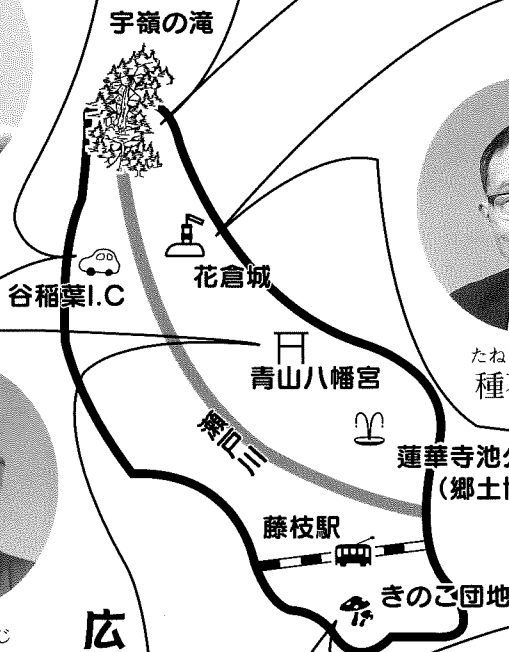
大洲地区



やまだこういちろう
山田幸一郎



くらたかつじ
倉田克治



かわらばん

新市史編さん委員の紹介

左記のとおり委員の交替がありました。

編さん委員長 新 松野輝洋(市長)

編さん委員 旧 八木金平

編さん委員 新 井沢銈一(市議会議長)

編さん委員 旧 小沢佐敏

『藤枝市史研究』第1号を刊行

市史編さん事業をより多くの人たちに知っていただくために、『藤枝市史研究』第1号を刊行しました。専門委員や調査委員の皆様が、どのような調査を行い、成果をあげているのかなどを掲載しています。B5判、価格は 八〇〇円、郷土博物館で販売しています。

☆市史叢書『広幡村誌』(八〇〇円)、『大洲村誌』(二、〇〇〇円)も郷土博物館で販売しています。

市史学習会

と き 9月23日(祝) 午後2時～4時

ところ 木町区自治会館 1階

テーマ 藤枝防空監視哨と静岡県の空襲

講師 師村瀬彦氏(市史編さん調査委員・静岡県教育委員会文化課指導主事)

募集人員 80人

入 場 無料

申込方法 9月5日(火)から電話で郷土博物館へ

市史編さん事務局です

こんにちは！

市史編さん事務局です



資料の提供・聞きとり調査にご協力をいただき、ありがとうございます。

市史編さん事務局では、12年度に年2回の学習会開催(右記学習会を含める)、市史研究第2号の刊行、市史だより第3、4号の発行を行う予定です。

より多くの皆様に市史編さん事業を知っていただき、関心をもってもらえるよう活動いたしますので、これからもご理解・ご協力をお願い申し上げます。

11年度事業の紹介

近世・近現代

夏休みのみ友

静岡県教育会編纂

尋常科第五学年

小学5年生 夏休みの友（大正15年）

碓井家所蔵



滝沢（瀬戸谷地区）の村文書には寛文六年（四代家綱）から明治初年に至る年貢割付状がほぼ連続して残されていました。上藪田（葉梨地区）の村文書には元和、寛永期（二代秀忠、三代家光）の入会問題に関する史料も保存されていました。両村とも名主交代時には、目録をそえて重要文書が引き継がれました。その風習は明治以後も続けられ、したので、戸長役場、村役場、さらには市役所の書類まで大切に保管され、市史編さんの重要史料として大いに役立っています。

考古・古代

考古担当では、助宗古窯跡群を踏査し、地表にでている土器を採集するなど現在の様子を確認しました（写真）。同時に資料編の執筆に向けて数回の打ち合わせを行いました。

古代担当では、御子ヶ谷遺跡などから出土している墨書土器の文字を観察し、平城宮跡や水守遺跡などから出土している木簡を赤外線カメラで再調査しました。また、志太地域における古代の条里復元のために土地宝典をつかって地割りの調査を行いました。



助宗・細谷地区A地点での調査風景

中世

11年度から12年度にかけて、市内に残る中世資料の現地調査を行っています。安楽寺では天文七年（一五三八）の銘のある静岡県指定文化財の鰐口（寺社の軒先に吊し、参詣者が打ち鳴らすもの）等を、今川氏ゆかりの長慶寺では『今川義元判物』等を、若王子神社の神主を代々務めた成瀬家では『今川氏真判物』等を、それぞれ調査・撮影させていただきました。また『三河物語』等の戦国期の記録や『静岡県史』から藤枝に関する箇所を抜き出す「めぐり調査」も進めました。

民俗

本調査最後の年となった11年度は、10年度から引き続き、市内各所で調査員が各々のアプローチで人生儀礼・年中行事・民間信仰・祭などについて聞きとり・撮影などの調査をしました。また、市内において伝統的形態を持つ住居を数軒選び、各邸の協力のもと、建物の外観や内部の間取りを実測し、それぞれのスペースの使用方法についての聞きとりも行いました。加えて、高根山・びく石など市内の山において植生についての調査も実施しました。



天狗まつり



長慶寺 文書調査風景